

建設作業員のデータベース化

国土交通省は、国内の建設作業員が技能資格や職歴などを登録するデータベースを2017年度(平成29年度)にも作る方針を固めた。建設作業員が雇い主の建設会社へ実績をアピールし、現場での待遇改善につなげられるようにする。人材が集まりやすくして、建設業界の人手不足を解消する狙いもある。業界団体がシステムを運用する方向で、データベースは作業員本人の同意を得たうえで、国内の約330万人全員を対象とする。作業員は名前や生年月日のほか、保有する資格、職歴、経験した研修などを登録し、ICカードを発行してもらう。資格を取得したり、新たな現場で働いたりする度に、情報を更新。



2017年運用開始です!



労働需要調査結果

調査結果は、平成28年9月10日～20日までの間の1日(日曜、休日を除く)を調査対象日として調査している。型わく工(土木)、型わく工(建築)、左官、とび工、鉄筋工(土木)、鉄筋工(建築)、電工及び配管工の8種が対象。建設業許可を受けた法人企業(資本金300万円以上)で、約3000社を対象とするもの。

(平成28年9月27日発表)

全国の過不足率の状況(原数値)

【8職種】0.9%の不足。

○8職種全体で0.9%の不足。特に鉄筋工(土木)で、2.3%の不足率が大きい。

【6職種】11%の不足。

○6職種全体で1.1%の不足となった。特に鉄筋工(土木)で、2.3%の不足率が大きい。

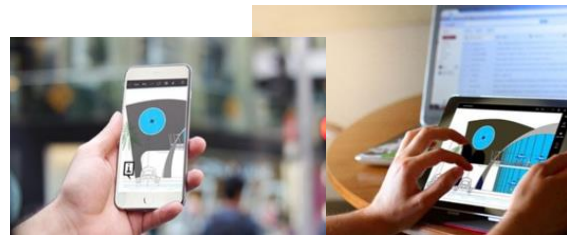
全国の8職種の過不足率は、8月は0.9%の不足、9月は0.9%の不足となり前月と同様となった。

<http://www.mlit.go.jp/common/001149699.pdf>

新商品のご紹介

iPhoneやiPadで図面修正! ※DWG互換CAD「JDraf」がiOSにも対応

ジェイドラフ(本社:東京都新宿区)が発売しているCADソフト「JDraf」最新版が、iPhoneやiPadでも使えるようになりました。「JDraf」はCAD図面の業界標準フォーマットとなっている「DWG形式」と互換性があり、低価格でJw_cadと似た操作画面も用意されていることなどが評価され建設業界でのユーザーが増えています。



iphoneでも使えます!

2級土木・建築技術検定制度見直しへ

国土交通省は、施工管理技術検定のうち、2級土木・建築の学科試験を2017年度から年2回実施することを決めた。技術検定の受験者数は1級・2級ともに減少しており、同時に受験者・合格者の平均年齢も上昇傾向にある。特に2級学科(土木)では、合格者の平均年齢がこの15年で5歳上昇している。技術力の水準を維持しながら、若年層への受験機会の拡大や受験要件の緩和で資格取得を促す。

http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/totikensangyo_const_tk1_000055.html

一括下請負の判断基準 元下の役割明確化

国土交通省は、実質的に施工に携わらない企業を施工体制から排除し、不要な重層化を回避するため、一括下請負の判断基準を明確化した(2016年10月14日付通知)。元請けが現場で「果たすべき役割」を、施工計画の作成、工程管理、品質管理、技術的指導などの項目ごとに明記。役割を果たしていない元請け・下請けを実質的に施工に関与せず、一括下請負であると判断する。新たな判断基準では、元請(発注者から直接請け負った者)、下請(それ以外の者)それぞれが果たすべき役割を具体的に定め、一括下請負の禁止のさらなる徹底を図る。

<判断基準の一例>

○工程管理について

・元請(発注者から直接請け負った者)

建設工事全体の進捗確認、工程調整

・下請(上記以外の者) 請け負った工事の進捗確認

○品質管理について

・元請(発注者から直接請け負った者)

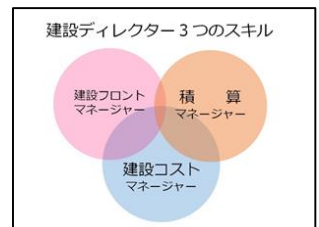
下請負人からの施工報告確認、必要に応じた立会確認

・下請(上記以外の者)

請負った工事の立会確認(原則)、施工報告

新たな職域”建設ディレクター”

40年に亘って、建設業の皆さまへのITサポートならびに各種セミナーを行ってきた京都サンダーが企画、運営する、建設ディレクター育成講座が新春1月からスタートいたします。



建設ディレクター育成効果	
現場	事務処理軽減・時間短縮 生産性向上 若手育成・定着支援
オフィス	コミュニケーション良好 やりがい・達成感 処遇改善
経営	組織の活性化 生産性の向上 利益確保・育てる仕組み

建設ディレクター育成講座の募集開始は11月中旬からの予定です。講座スタートは、新春1月からです。

詳細お問合せは、
京都サンダー教育事業部まで。



平成29年1月から育成講座開設!

講習会のご報告

平成28年度湖南四市商工会建設部会連絡会
「女性たちが紡ぎだす建設業の未来」
講師：田辺直子(京都サンダー株式会社)

10月25日、栗東市で開催された講演会では女性活用が求められる建設業において京都サンダー(株)が取り組んだ事例および動向について、滋賀県草津市、守山市、野洲市、栗東市の建設業の経営者の皆さま、約45名に向けて、報告、解説をおこないました。

まず、アベノミクスの成長戦略の一つ、2013年4月に施行された女性活躍推進法について解説。政府は全上場企業の意味決定層(役員・管理職)に女性登用を2020年には30%を目標として、女性が働き続けられる社会の構築を目指し育児休業や短時間勤務を取得しやすいように職場環境を整備していくとしています。

その具体的事例として、東京と京都の建設業の事業所における女性社員の働き方についてご紹介。

また、京都サンダー(株)の取組む国土交通省採択事業「建設業女性未来づくりの会CHIC」、シンポジウム「建設未来京都フォーラム」の記念事業インタビュー集についての報告。最後に、27年度から京都サンダー(株)が開設予定の女性育成事業、「新たな女性の職域」建設ディレクターについて提案が行われました。



講習会参加のご報告

CPDS認定平成28年度「土木工事積算実務講習会」

主催：一般財団法人建設物価調査会
開催日：10月25日(火) 9:30~16:30
「工事費積算の仕組みの解説と演習」

講師：一般財団法人建設物価調査会
専任講師 竹林 徹也 氏

参加者：76名 会場：新大阪ビル別館

内容：積算「応用編」として、おもに施工パッケージ型積算及び、積み上げと施工パッケージとの違いについて重点的に説明。受講生に向けた演習問題などが、実践的で理解しやすく解説されました。

CPDS認定ドローン研修会

富士訓練センター「朝霧経営塾2016」

主催：職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会

会場：富士教育訓練センター

開催日：10月3日(月)~4日(火)

参加者：50名

建設技術者・技能者のための教育訓練施設、富士訓練センターで開催された「朝霧経営塾2016」。国土交通省が推進するi-Constructionに対応した建設業向けUAV技能者の教育訓練の一環として設定された講演やシンポジウムなどのプログラムで実施。「ICTの全面的な活用(ICT土工)」、「i-Constructionが拓く生産性革命元年」「UAVが拓く未来の情報化社会」「橋梁・トンネル点検用打音検査飛行ロボットの研究開発」などのメニューで二日間に亘り、学習しました。

話題の各種ドローン(UAV)のデモンストレーションや参加者が交代で操作体験など充実したメニューに取り組みました。

【新連載】『女性たちが描く5年後の建設業』①

2013年来、建設業における施策、女性活躍推進法が展開されていますが、男性とともに女性たちは長年に亘り、建設業に多様な形で関わり続けてきました。そこで、2016年建設未来京都フォーラム記念事業では、建設業の“今”を見守る女性の皆さまに5年後を語っていただくためインタビューを敢行。多忙ななか、豊かな共感力と想像力に満ちた言葉を、また男性の皆さまからも理解にあふれたお声をお寄せいただきました。インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一人にもできるはず』から、39名の方々の貴重なお声を要約して、シリーズで再掲、ご紹介してまいります。

◇質問：
5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

◆(建設業に関わって22年目)◆

何でも最初から完璧を求めないこと。細々とでも続けること。従来通りのやり方にとらわれすぎないこと。所属している組織外、仕事以外の人脈も大切にすること。

◆(建設業に関わって3年目)◆

育児休暇や育児の制度の充実。

◆(建設業に関わって1年目)◆

建設業に関するマイナスイメージを払拭することが必要。文系の大学に通っていたのですが、「建設業は理系出身の人だけしか関われない」というイメージを持っていたので、最初は就職が難しいのではないかと考えていた。こうしたイメージを持っている人は多いと思う。担い手を定着させるためには今までのやり方、大事なことを残しつつ、新しい担い手を受け入れる環境づくりが大切。若い人が不安を感じていることや、女性が現在の状況で不便に感じていることに気付くことで、改善策が見つかるのではないかと。

◆(建設業に関わって20年目)◆

会社の環境、設備などの改善。

◆(建設業に関わって20年目)◆

若者には、土木の現場の楽しさと誇り高さを知ってほしい。女性には、様々な関わり方ができる分野だということを知ってほしい。それぞれ、届けたい人に届きやすい、わかりやすい伝え方をすることが大切だと感じる。

◆(建設業に関わって6年目)◆

女性の為の設備を整える(シャワールーム、トイレ)ことも大事かもしれないが、現役で働いている人の受け入れ態勢(特に感情面)が整わないことには難しいと思う。老若男女問わず、自分が存在する意義、必要か否かは一日の大部分を占める仕事においては重要だ。特別扱いは必要ないが、はじめから若いから経験がなくてダメとか女性だから戦力にならないというような気持ちではなく、自分が育てて一人前に育てるのだという意欲を持つことが大切(これは自分自身に言いかけさせている)。

◆(建設業に関わって1年目)◆

女子専用トイレや更衣室といった女性が働きやすい環境づくりが必要。そして、育休・産休も取りやすい会社作りも必要。建設業といえば男性のイメージが強いという中、現在では女性の進出も増加している。会社全体で、女性の雇用について考え、サポートをしていくべきだ。また、近年では高齢化が進行し、若者の離職率も高い現状がある。特に解体業では建築業と違い、大学や専門学校で学ぶことはできない。解体の手順書や図面もない。つまり、次世代へ技術を受け継いでいかなければならない。社内でも定期的に新人研修会を設け、個人の意識やスキルアップのサポートを行い、次の世代へと技術を引き継いでいかなければならない。

(次号につづきます)

